

祝辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、保護者の皆様、お子さまのご卒業おめでとうございます。
心よりお喜び申し上げます。

皆さん、ようやくここまでたどり着きましたね。

生まれてから十五段目の階段まで登ってきました。

そして、誰の人生でもない自分が主人公の物語がスタートしました。
生まれて間もない一段目の階段では、生きるために必死な皆さん
を家族の皆さんは宝物を授かった喜びと期待と不安を感じながら
皆さんを守り続けました。

三段目の階段の時には、未曾有の東日本大震災があり、大きな
揺れと計画停電などを経験しそこでも家族は不安な中、皆さんを
守ってきました。

六段目の階段で、小学校に入学し、たくさんの友達と家族と先生に
支えられ貴重な階段を一段一段登り続けてきました。そして、つい
に十三段目、この陽東中学校に入学することになりました。しかし
入学前に、いまだ誰もが経験したことがない、コロナとの戦いが始
まりました。入学式は人数の制限もあり、その後の生活においても
マスク着用が義務付けられ、学校行事や部活動の大会も中止や
短縮を余儀なくされ、それでも皆さんは、十四段目、十五段

目と仲間と共に登ってきましたね。

この中学校生活を当たり前前のように、過ごしてきたかもしれませんが、決して当たり前前ではない三年間だったと思います。

この「当たり前前」という言葉の反対の意味が…わかりますか？

当たり前前ではない、有難いこと。ありがとうという言葉です。突然、普通だと思っていた生活が奪われること。いつてらっしやい、行ってきます、おやよう、おやすみ、ごめんなさい、うれしかった、…ありがとう。

普段何気ない言葉は、実は言えること自身、当たり前前ではなく、ありがとうございますの連続なのです。

皆さんが、一段目の階段を登り始めてから、手を引いて一緒に歩いてきた家族からは、少しずつ手が離れ、いつの間にか十五段目の階段に登った皆さんの少し後ろで見守っています。

がむしやらに一人で生きているように見えて、そうではない。

まわりを見てみてください。左側に先生方、後ろに後輩の皆さん、そのまた後ろに家族の皆さん、そしてここに来られなかった人の想いもあり、そうした方に支えられ、今ここにいるのです。本当に心からのありがとうございますでしょう。

自分だけの人生の物語は、始まったばかりです。

同じ物語はありません。主人公は自分、話の続きはこれから自分で描いて前に進んでいくことになります。これまで守られ、支え

られてきた事、また誰かを支えなくてはならないこと、いろいろなつながりを大切にして自分の夢を実現すること。物語の中には様々な場面があることでしょう。皆さんが自分の物語をどのように描いていくのか楽しみにしております。そして、当たり前前のことがありがとうであることに気づいて、感謝をして、十六段目の階段へ気持ちよく物語の主人公として踏み出していってください。

私たちは、皆さんのうしろ姿を力強く応援していきます。

だから最後に言わせてください。一緒に生きてくれてありがとう。そして、生きることが大切にし、自分の大切な人を守れる大人になつてください。

結びに、校長先生はじめ先生方、生徒たちと真剣に向き合い、熱意をもって見守り、時には厳しくご指導いただき、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

卒業生の皆さんのこれからの活躍を心より願っております。

本日は本当におめでとうございました。

令和五年三月十三日

宇都宮市立陽東中学校 PTA会長 水上 淳